

かもめ便り

記事紹介

新年のご挨拶	1面
ピアサポート会議	2面
季節だより	2面
地域連携室だより	3面
緊急放送システム訓練	3面
Dr.'sエッセイ	4面

【発行・編集】社会福祉法人 小渦会 鳴門シーガル病院 理事長 鎌田啓三
徳島県鳴門市瀬戸町堂浦字阿波井57番地 TEL. 088-688-0011(代)

【ホームページ】 <http://k-seagull.jp/>

シーガル病院



新年のご挨拶

皆さん、明けましておめでとうございます。昨年は大変お世話になりました。本年もどうぞよろしくお願いいたします。今年はまだ、格別に穏やかないお正月でした。

いまだ道半ばの景気回復、来春に消費税の10%への引き上げが予定されるものの、先の見通せない厳しい社会保障財源の現状などなど、我々を取り巻く課題は山積しております。

しかし、元旦には、そんな様々な不安を払拭するかのよう素晴らしい「初日の出」を見られた方も多いのではないのでしょうか。

さて、新しい年が始まりました。「一日の計は朝にあり、一年の計は元旦にあり」と申します。今年の小渦会の重要な目標のうち一つは、「鳴門市内に診療所を開設する」ことであります。

もとより、私達の使命は、患者さんや利用者の皆さんに、良質な医療・福祉サービスを提供することではありますが、また、同時に退院・退所された方の地域生活を支援することも、重要であると考えております。

そのため、近年、訪問看護やグループホームなど在宅系サービスの充実に努めてまいりましたが、これらを含め、地域に密

着した医療サービスなどの拠点施設として、来春を目処に開設する予定としております。

我が国の現状から見れば、今後とも、医療・福祉体系の方向性を見誤ることの無いよう柔軟な対応が必要だと考えております。役職員一丸となって取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。

理事長 鎌田啓三



2016

新年明けましておめでとうございます。

本年は戦後2度目の丙申（ひのえさる）に当たるそうです。丙申は「革命」・「変革」の年とされ、物事が大きく発展、成熟する年となります。当院もまさに大きな発展のため、2大プロジェクトに臨もうとしております。

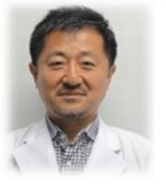
一つ目は、サテライトクリニックの増設であり、できれば地域支援のために鳴門市内

に建設を考えております。それによって、グループホームや訪問看護ステーションとの連携を密にし、患者さんのサポートをより充実できると考えています。

二つ目は、電子カルテの導入です。私自身が超アナログ人間で、携帯電話もろくに使いこなせないためこれまで二の足を踏んできましたが、時代の流れに逆らう訳にはいかなくなりました。これで、各施設とも安全な回線で瞬時に情報共有が可能となります。

各病院が機能特化していくなか、急性期型の病院は「断らない病院」「強い病院」を目指しています。しかし当院は常に患者さんに寄り添い、社会復帰に向けて暖かく見守っていただけるような「優しい病院」を目指していきたいと思っております。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

院長 福永明広



地域交流

ピアサポート会議

平成27年12月2日、当院にて「ピアサポート会議」を開催いたしました。この会は徳島保健所主催のもと、県内の様々な病院で開かれ、当院でも毎年開催されています。

ピア (peer) とは「仲間」という意味で、ピアサポートを直訳すれば「仲間の支援」です。患者さんひとりひとりの抱える悩みは様々で、相談



員や医師だけでは解決が難しい場合もあります。そんな時、同じような問題で困っている人と、悩みや経験を共有して一緒に考えることで、不安な気持ちが和らいだり、思わぬ気づきが生まれたりすることがあります。

今回は、当院と同じ法人内のグループホームファミリーを利用中の方に来ていただき、実際に地域で暮らす中で体験したエピソードなどを語っていただきました。

集まった皆さんは、自分と同じような悩みを抱える人の生の声を聞いて、大きくうなずいたり、また自分が今現在



抱えている不安や疑問について質問を投げかけていました。

会議は大変好評で、これからもこういった機会を利用して、患者さんたちの不安が少しでも軽くなればと思います。

ぜひ、今後も継続してこの活動に参加したいと考えています。

季節だより



今回は、季節にちなんだ給食などを一部紹介します。特に行事の多かった12月をピックアップしました。

今年の冬至は、昔ながらの暮らしの知恵を拝借して、給食には「かぼちゃ煮」をお出ししました。「冬至のかぼちゃ」はビタミンやカロテンなどを補給できて、冬場の風邪予防にうってつけです。また、「冬至 - 湯治」・「ゆず - 融通が利く」の語呂合わせもあるゆず湯を、病棟のお風呂で行いました。いつもと違うバスタイムに患者さんも喜んでくれたことと思います。

クリスマスには、いつも

の給食に、クリスマスケーキが付きまして。メッセージカードも添えて、患者さんの健康を祈念しました。

また、年末には年越し前に嬉しいおやつの配布。縁起のいい和菓子の詰め合わせで、患者さんも喜んでくれました。

入院中で院内で過ごす時間が多い中でも、季節の移り変わりや行事を感じて頂けるよう、様々な工夫をこれからも続けていきたいです。



クリスマスのケーキ



かぼちゃ煮



ゆず湯



年末のおやつ



地域連携室 だより

前回、前々回のかもめ便りでは

- ①当院では無料低額診療事業を行っている
- ②この事業では医療費等の自己負担が全部、もしくは一部が減免される。
(医療費等とは診療費自己負担金、入院における差額ベッド料、健康保険適用外の検査等の費用、患者移送に要する費用、日用品の支給または貸与並びに衛生に要する費用、その他が含まれる。)
- ③経済的に困窮されている方が対象となる。

以上の点についてご紹介させていただきました。今回は③の「経済的に困窮されている方」という、無料低額診療

事業の対象となる方の基準について詳しくご説明いたします。

まず、当院の無料低額診療事業の内規において、その対象となる方の具体的な基準として「収入や預貯金などの資産が生活保護法による生活扶助の1.3倍以内にあるものを基準とする」となっています。生活扶助の額はその年度や地域、年齢等によって変わりますが、無料低額診療事業の対象となる方の収入の例として

- 鳴門市(三級地-1)に在住
 - 20歳から40歳単身生活以上の方の生活扶助基準額は66,840円
- これを当院の内規に当てはめると
 $66,840円 \times 1.3 = 86,892円$

となり、ひと月の収入がそれ以下であれば無料低額診療事業の対象となります。

(なお、既に生活保護法が適応されている方は対象外です。)

以上のように、今まではある程度の収入があったけれど病気や障害などで収入がなくなっている方や、リストラや失業によって一時的に収入がなくなっている方、医療費の支払いをすると生活に困難を生じる方などが無料低額診療事業の対象です。

収入や資産については無料低額診療事業の窓口となっている精神保健福祉士(PSW)が簡単な資産調査を行うとともに、経済面に関する相談などについても対応させていただきます。より詳しいご質問、ご相談等がありましたら地域連携室の精神保健福祉士(PSW)までお気軽にご連絡ください。



シーガルニュース

緊急放送システムの訓練



昨年の12月9日、「緊急放送システム」の訓練を行いました。

当院では、緊急時にその内容に応じて即座に対応できるよう「レッド」・「ブルー」・「イエロー」の3つの院内放送コードを用意しています。今回は、実際にこのコードを使って、誤嚥をしてしまった方を発見するところから、最終的な処置が終了するまでのシミュレーションを行い、評価・検討をしました。

実際に体を動かしながら再確認してみると、机の上では気付かなかった様々な

課題が見つかりました。緊急放送が必要なことが起きないに越したことはありませんが、いざという時に備えて今後も訓練を重ねていく必要を強く感じました。

また、より迅速に必要な対応が取れるように、引き続き運用方法の検討・精査を重ねていきたいと考えています。





お正月の最初に行くのが初詣なら、最初に見る夢は初夢ということになります。両方ともその年の道筋を暗示するかもしれない大切なものです。

ところで夢とはいったい何でしょうか？何のために見る必要があるのでしょうか？

精神医学の歴史上、夢の内容は大きな意味があるという論と内容自体には格別な意味はないという論が激しい争いを繰り返してきました。そして今の大筋での理解は、その人の感情状態をある程度反映するが、内容の中に特別な暗示や示唆を必ずしも見出すものではないというものです。確かにうつ病の人が見る夢は怖い夢やら悲しい夢が多く、また震災後の被災者の例をあげるまでもなく大きなトラウマを背負った人の見る夢は悪夢とも呼べる内容が多いようです。夢を解釈するならその内容よりもその役割を考える必要があります。

夢の多くは何らかの強い感情を伴っており、感情調節の機能を果たしているのは間違いありません。そしてここが重要なのですが、夢見の最中に覚醒レベルまで目覚めた時のみ夢を見ていたという自覚が残ります。そうでない夢は生まれても自覚されないまま一抹の泡として消えていきます。自覚された夢もその一瞬の後には自己意識をフル回転させないかぎり、やがて無意識の海へと沈んでいくはかない運命が待っています。それを生かして自己治療に役立てることが可能かもしれません。夢の内容がどんなに悲しいものであろうとも、どんなに恐ろしいものであろうとも、その後のストーリーを自分の手でハッピーエンドな結末へと変えていくのです。

アメリカの9.11で崩壊するビルからたくさんの人々が落ちていくシーンを目撃して深刻なトラウマを負った少年がいました。彼がそこから

回復する過程で描いた絵が我々に希望を与えてくれます。最初に描いていた絵はビルから顔のない真っ黒な無数の人形が落ちていくという残酷な図柄でした。そして回復過程で描かれた絵には、ビルから落ちていく人々が背中のパラシュートを開き、みんな笑顔で楽しそうに降りていくシーンへ変わっていました。「その絵は事実ではない！」と指摘することに何の意味があるのでしょうか？はっきりした事実は傷ついて立ち直れないと思われた人間でもきちんと立ち直ることができるということです。夢でもおそらく同じようなことができるはずですが、恐ろしい夢でも悲しい夢でもそれとしっかり向き合い、自分なりの幸せなストーリーに変えていく。そして病気を脱して自分の未来を自分の手で変えていく！

夢のある素敵な話だと思いませんか？

医師 澤田和之

【編集後記】

春が近付いてきましたが、まだまだ寒い日が続いています。寒暖差も激しいので、体調管理に気を付けましょう。

次号(『かもめ便り』第13号)は、2016年5月に発行の予定です。

編集担当 内藤

社会福祉法人 小湊会URL



鳴門シーガル病院 交通案内

● JR鳴門駅から「北泊・堂浦行」徳島バスで堂浦(どうのうら)下車(所要時間20分)

● 直営渡船利用 (所要時間2分)

◎ 渡船(無料) 運航時間

午前7時30分から午後5時15分まで

定時運航(10分~30分間隔)しています。

TEL 088-688-0011 (代)

